

わかりあえる 認め合える  
わたしたちが創る男女平等社会



報告とシンポジウム  
人間の復興は進んでいるか  
被災地の女性たちは



どうして私たちは輝けないのだろう  
—非正規職シングル女性の現状と課題—



子育て中の女性を取りまく  
社会保障制度とその課題



男女共同参画推進せんだいフォーラム 2020  
女性の老後と社会保障

## 「イコールネット通信」

**2021. 1 Vol. 32**

### 目 次

#### ★報告とシンポジウム

人間の復興はすすんでいるか 被災地の女性たちは「今」  
東日本大震災・・・そしてコロナ禍・・・

#### ★「仙台に暮らす女たちの現状と課題」市民学習会

\* どうして私たちは輝けないのだろう

-非正規職シングル女性の現状と課題-

\* 子育て中の女性を取りまく社会保障制度とその課題

\* 女性の老後と社会保障

#### ★お知らせ

## 人間の復興はすすんでいるか

# 被災地の女性たちは「今」

## 東日本大震災・・・そしてコロナ禍・・・

震災から9年半、被災地で暮らす一人ひとりの真の復興は果たされているのか。

イコールネット仙台では、2017年度から「人間の復興はすすんでいるか」シンポジウムを毎年開催してきました。2019年度は、例年通り3月に予定していましたが、コロナ禍により9月の開催となりました。

震災以降、被災地である宮城・岩手・福島、それぞれの地域で、女性たちは様々な努力を重ね、地域に多くの変化をもたらしてきました。今回のシンポジウムでは、各地域からの報告を通して、復興の「今」を確認し、よりよい復興の姿を考えました。

登壇者は、岩手から高橋福子さんがオンラインでの登壇となりました。当日は、コロナ禍における女性たちの現状も考え合う場となり、参加者40名と関心の高さが伺われました。

日時：2020年9月13日（日）13:30～15:30

会場：エル・パーク仙台 スタジオホール

参加者：40名



### 【報告者・パネリスト】

高橋 福子さん（エンパワメント11（い）わて 代表）

遠野 馨さん（特定非営利活動法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島 理事長）

高橋 有香里さん（支援者ピアネットてらこや 代表）

### 【報告】

高橋 福子さん 「わたしの3.11とこれから・・・」

私は、震災当時、行政職員として沿岸の人たちの被災者相談等を受けていたが、ジェンダーに関して勉強してきたにもかかわらず、非常時対応になってしまい、避難所運営マニュアルの作成についてもジェンダー視点を反映できず、職員の中でも共有できず、モヤモヤだけが残った。自分に被害が少なかった上に、直接支援にあたることも少なかったため、後ろめたさが大きくなっていった。一方、プライベートでは、2012年5月、エンパワメント11（い）わてを設立し、もりおか女性センターの助成を受けて、毎年、「女性と防災」を学ぶ講座を実施した。また、2012年、2014年に、被災女性を対象に「アンケート調査」を行い、報告書にまとめた。調査に協力してくれた女性たちはどこにもぶつけられない思いを私たちにぶつけてくることもあったが、聞く人も必要だと改めて思った。震災から10年目になり、3回目のアンケート調査を実施する予定だ。私自身は、「女性と防災」について盛岡市に講師登録をしたので、これから盛岡市に貢献できればと思っている。この間、震災から抱えてきたモヤモヤを同じように抱えてきた人がいるんじゃないかと思い話をさせてもらった。

## 遠野 馨さん 「福島の復興 東日本大震災、台風被害、コロナ禍の中で・・・」

当団体は、1996年、母子家庭の母親10人で立ち上げた。現在は会員134世帯382人が登録しており、福島県内で教育資金講座やおしゃべり会等を行っている。震災後は、福島県内で一番大きい避難所ビッグパレットで女性と子どもの支援に取り組み、女性たちが安心して過ごせる女性専用スペースも設けた。避難所が閉じた後は、仮設住宅の集会所で手仕事講座などを開く一方、内部被ばくが心配で子どもに外遊びをさせられない子育て中の親子を対象に子育てひろばを開催し子育て相談なども行った。女性たちの中には、ストレスを抱え、育児ノイローゼやうつになり虐待を重ねている人もいた。福島の場合は、放射能の問題もあり、県外へ自主避難するかどうか等、家族間でも意見が分かれ、離婚した人もいる。県外への避難指示は今も続いており、解除された地域でも実際に戻っているのは3割程度。生まれ育った故郷に帰ることができない。生活の見通しが立たず、不安を抱え、避難者には、アルコール依存症やうつ病が増え、自殺率も急増している。孤立しやすい人たちには見守りが必要だと思う。特に、女性は身近なつながりを失うと生きる希望を失くすこともあり、孤立を防ぐためにも寄り添って支援を続けていくことが必要だが、震災関連の予算が次々に打ち切られている。

福島は災害が続いており、昨年の台風で被害を受けた生活困窮家庭の中には、生活を立て直すために借金をし、その返済のため、仕事を増やし、睡眠時間を削り、がんばっている人もいる。

また、ひとり親家庭の子どものために「こぶたのポッケ」という居場所づくりや原発事故から避難してきた高齢者には、線量が低い猪苗代に畑を借り農作業ができる場も提供している。さらに、コロナ禍によって、母子家庭は深刻な状況に置かれており、非正規雇用で仕事を失ったり、勤務時間が減り収入が減って、生活が苦しくなり、食事も3食食べられないケースも増えている。経済的支援が急がれる。

## 高橋 有香里さん 「震災時、震災後の地域、被災地支援 「今」思うこと、そしてこれから」

震災当時、東松島市の子育て支援センターに勤務していた。大きな揺れの中で、自分が怖いというよりも利用者と職員を守らなければという気持ちが強かった

震災から1年後にセンターを離れて、異動で市役所の家庭児童相談員となった。仕事を通して、震災で住環境が変わり夫婦関係が悪くなった高齢夫婦、子育てを支えてくれていた人が震災で亡くなり、子育てへの不安から虐待が始まった母親などの相談に対応してきた。震災の翌年から、せんだいファミリーサポートネットワークと共催で震災で子どもを失った母親の支援を始め現在まで続けている。当時医療従事者の方々が、学びといやしの場をつくろうということで支援者のための寺子屋を開催していたが、その支援が震災3年目に終了したのを機に、その活動を引き継ぎ、「まあぶるたいむ」を立ち上げ、引き続き支援者のための支援に取り組んでいる。この活動を通して気づいたことは、家族のケアで精一杯で自分のための時間を持っていない女性が多いということだった。「まあぶるたいむ」の名前は、まじりあいながらも色がしっかり残っているまあぶる模様のように、自分の色を大切にしてほしいという願いを込めてつけた。活動内容は、ぬり絵セラピー、アクセサリーづくり、フラワーアレンジメントなど。

現在は、2018年4月から、民間の保育園に勤務している。保育園の子どもたちは0歳～6歳までで、全員震災後に生まれた子ども。保護者の半数は震災を経験しているが、自分から震災のことを話す人はいない。私たちには、子どもたちに震災のことを伝えていく使命があると思っている。折鶴ネットワークという被災地支援の団体と一緒におもちゃプロジェクトを企画、子どもたちに震災を伝える活動に取り組んでいる。

コロナの影響は保護者の生活にも出ている。就労先で育児休業の延長を言われたり、家にいて、一人

で子育てをして気が変になったと話す人もいます。就労している母親たちにとっては、何もなくても子育てでは不安と苦勞の連続なのに、このコロナによって子育てへの不安がより一層増えているように思う。

震災そして現在のコロナ禍においても「つながる」ことが多くの女性たちを支えていると思う。自分自身が安定していることで、まわりの安心・安定につながっていくと感じている。

**3人の方々の報告から見えた共通テーマは「つながる」**  
参加者と報告者とのつながりから見えてきた支え合いと連帯の形を以下に紹介します。

**畑山 みさ子先生（宮城学院女子大学）⇔しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島**

支援者を支援する団体「ケアみやぎ」の活動を通して、遠野さんと知り合い、遠野さんたちが倒れないようにとお手伝いしている。団体の活動をまとめる冊子づくりや被災した高齢者向けの農作業支援の応援している。農作業の精神的効果は大きい。一方で、夫たちが集まりに参加してこないのが心配。これからは連れ合いの支援も視野に入れていく必要があると思う。

**伊藤 千佐子さん（せんだいファミリーサポートネットワーク）⇔ 支援者ピアネットてらこや**

せんだいファミリーサポートネットワークは子育て家庭の支援をしている。東松島で子どもを失くした母親の支援をしたいが、何もやってあげられないという高橋さんの話を聞いて、そうした母親が相談できる場をつくろうと「女性のためのわたし時間」を始めた。内容は、ヨガやフラワーアレンジメントなど。現地の女性たちが、もう大丈夫というまで続けていこうと思っている。

**イコールネット仙台 ⇔ 小野寺 彰さん（北仙台地区連合町内会）**

北仙台地区で、連合町内会長の小野寺彰さんの呼びかけで、女性防災リーダー養成講座がスタートしてから4年目になり、すでに100人の女性防災リーダーが誕生している。さらに講座終了生の中から北仙台防災ネット（代表：杉山せきさん）が立ち上がり、地域の中で、防災用の備蓄品の配布など、様々な取り組みを行っている。これからの活動に期待したい。

**イコールネット仙台 ⇔ 今野 麻里さん（せんだい女性防災リーダーネットワーク太白）**

イコールネット仙台が主催した「女性のための防災リーダー養成講座」の受講生が立ち上げた「せんだい女性防災リーダーネットワーク太白」では、児童館での子育て講座や市民センターと連携しての地域の高齢者向けサロンなどを通して防災講座を定期的で開催している。

こうした地道な活動が評価され、太白区からまちづくり活動賞の表彰を受けた。これからも引き続き、特に若い母親などを対象に活動を続けていくという。



#### 【アンケートから】

- ★何を復興とするか。以前の生活にもどすだけでなく、以前にあった生きづらさを改善していくことが「復興」になると思う。
- ★風化させないと強く思っていたはずなのに、震災に向ける力が弱くなっていたと実感しました。新しいスタートです。
- ★活動を確認する上でも、今回のようなシンポジウムの開催は大切な機会だと考えます。

## 「仙台に暮らす女性たちの現状と課題」市民学習会

仙台市が「男女共同参画せんだいプラン2016（計画期間2016年度～2020年度）」の見直し作業に着手するのを機に、2019年、子育て中の女性、高齢女性、非正規職の単身女性を対象に「仙台に暮らす女性たちの現状と課題」調査を実施し、結果を提言にまとめ仙台市に提出しました。

調査結果を広く市民に伝えプランに関心を持ってもらおうと「非正規職単身女性」「子育て中の女性」「高齢女性」それぞれについて市民学習会を開催しました。

### どうして私たちは輝けないのだろう-非正規職シングル女性の現状と課題-

講師：菊池悦子さん（第1回日本女性学習財団未来大賞受賞）〈オンラインで講演〉

日時：8月22日（土）13:30-15:30 会場：エル・パーク仙台 セミナーホール

参加者数：24名

#### 【講師プロフィール】

1976年生まれ。就職氷河期世代。高校卒業後、スーパーやデパートで非正規雇用の販売員として働き、何度も転職を経験。2015年、明治大学に入学。2019年、東京都立大学大学院に入学、現在、博士前期課程2年に在学中。研究課題は主にノンエリート女性の高卒女性の働き方。大学3年の時、非正規職女性の抱える課題、自分自身の大学入学までの経緯等について書いたレポートで日本女性学習財団第1回未来大賞を受賞。

#### 【講演から】

私は、ノンエリート、シングル、非正規職の女性たちは社会の中で見えていない存在なのではないか、私たちのような存在を社会に発信していきたいと考えレポートを書いた。

女性活躍が言われる中、私は正規職でキャリアとして経歴に残るような仕事に就いているといった輝く女性のイメージとは程遠く、非正規職を転々として履歴書に書けるような職にも就けず35歳を超え、もう正規職に就くことはできないと考えている。結婚もしないかもしれないと思い、変化のない生活が一生続くのかなと感じ始めていた。デパートの販売員として半年毎に契約更新を繰り返しながら働き続けている状態で、ボーナスも出なかったし、東京の最低賃金と同じくらいの時給で働いていた。東京郊外でワンルームに住んでいたが、あまりにも生活が苦しくて実家に戻ってきた。正社員になれることもないということはわかっていて、働くことへの不安や将来に向けて希望の持てない絶望感を抱えていた。一方で、自分は何者なんだらうというアイデンティティの問題も悩みとして大きくなっていった。

現在、大学で学ぶ中で、私たちのような状況を生み出した社会背景には、非正規雇用率の上昇、未婚率の上昇、7050問題、8050問題等があること、また、「稼ぎ主の男性と家庭を守る女性という固定的な価値観が大きく影響しているのではないかと考えている。若年層でもなく、無業でもない、シングルマザーでもない非正規シングル女性への支援策が必要であることを強調したい。

#### 〈アンケートから〉

- ★私自身、非正規職で働いています。同じ不安や悩みを抱えていることがわかりました。日々の生活で精一杯でしたが改めて働くことについて考えさせられました。
- ★非正規職の概念は一つではなく、時代による変化、未婚率の高さ、貧困問題など奥深いことに改めて考えさせられました。
- ★非正規職で働く人は減らないので、同一労働同一賃金の考えを確立させなければならないと思う。

## 子育て中の女性を取りまく社会保障制度とその課題

子育て中の女性たちが抱える課題は様々に存在しています。「子育て」「仕事」「経済」「介護」「老後」等々。社会のしくみを理解し公的支援を活用しながら、自分らしい暮らしを実現させていくために考える機会とする

講師：熊沢由美さん（東北学院大学経済学部共生社会経済学科教授）

日時：9月17日（木）10:00～12:00 会場：エル・パーク仙台 創作アトリエ

参加者数：11名

### 【講師プロフィール】

埼玉大学経済学部卒業。2018年より現職。岩沼市男女共同参画審議会副会長を務める。主な研究業績に「1994年以前の保育需要調査」、『社会保障（第6版）』など

### 【講演から】

子育て中の女性が利用できる制度には現金給付（児童手当等）と現物給付（保育所、児童館、児童相談所等）があり、働く女性を対象とする制度については、子どもの看護休暇や所定労働時間の短縮措置等がある。一方で、社会保障給付費は、日本の場合、対象別に、高齢者関係給付が66.3%と最も多く、児童・家族関係給付は7.5%と大変少ない。その背景には、個人の生活を支えるのは家庭と企業という日本型福祉社会の考え方があり、少子化社会の到来に対する認識が低いといえる。また、共働き世帯が増えているにもかかわらず、妻は夫の扶養に入ることが前提の専業主婦世帯を標準モデルとした年金制度により、様々な支障も出てきている。今ある制度を活用しながら、その改善点を世論につないでいくことが必要ではないか。

## ＝男女共同参画推進せんだいフォーラム2020参加企画＝ 女性の老後と社会保障

誰にも訪れる老後、特に、女性の老後を取り巻く課題は「介護」「経済」「健康」「経験や知恵の伝承」等々、様々に存在しています。自分らしい「老い支度」をすすめるために、社会保障のしくみを知り、自分の老後を、そして「現在」をデザインする。

講師：熊沢由美さん（東北学院大学経済学部共生社会経済学科教授）

日時：11月15日（日）13:30～15:30 会場：エル・パーク仙台 セミナーホール

参加者数：43名

### 【講演から】

社会保障の中では、女性は経済的に夫に扶養され家族のケアをすることを前提に位置づけられている。年金についてみると、年金額を決める際の標準世帯は40年間会社員として働いた夫と専業主婦のその妻という組み合わせがモデルになっており、まさにここに社会保障での女性の位置づけが出ている。こうした背景のもとに、物価と賃金に応じて年金額が変化するしくみになっている。また、医療と介護については、国民皆保険から老人医療費の無料化、その後の後期高齢者の医療費拡大からの介護保険の導入という流れがある。さらに、地域包括ケアシステムにより医療のあり方も変わり、住まい、医療、介護予防等を地域で一体的に取り組む自助・共助・公助・互助がすすめられるようになった。地域の病院機能の分化による医療機関の使い分け、施設介護から在宅介護へ、そして今、介護労働者の不足等も課題として浮かび上がっている。

お知らせ

満員御礼！

★★締め切りました！★★

## 防災力UPセミナー マイ・タイムライン普及講座

★★災害に備えて あなたのマイ・タイムラインをつくってみませんか★★

➡ マイ・タイムラインとは

災害に備えて、一人ひとりの生活環境や地域の特性に合わせて、「いつ」「何を準備して」「どのタイミングで」「どこに避難するか」など、自分自身の行動について時系列で整理をして、いざという時にあわてずに避難行動がとれるように作成する表です。

講師：折腹 久直さん（仙台市防災・減災アドバイザー）

日時：2021年2月7日（日）13：30～15：30 会場：エル・パーク仙台創作アトリエ

定員：20名

今年も、宮城野文化センターで展示されます！

ししゅうで伝える「わたしの物語」—東日本大震災の記憶—

昨年作成されたししゅうのタペストリーが引き続き今年度も宮城野区文化センターで展示されます。

日時：2021年2月27日（土）～3月11日（木）

会場：仙台市宮城野区文化センター1階ロビー

新刊のお知らせ 2021年1月刊行！

東日本大震災から10年、新たな学問が始まる！

## 災害女性学をつくる

編著 浅野富美枝（元宮城学院女子大学教授）・天童睦子（宮城学院女子大学教授）

災害に強い地域・社会をつくる。ともに地域・社会を再構築する。

そして、ともに災害女性学をつくる。その担い手は私たち一人ひとりである。

執筆者：浅野幸子・薄井篤子・瀬山紀子・長谷川公一・畑山みさ子・宗片恵美子

## 2021年度イコールネット仙台総会のお知らせ

日時：2021年5月16日（日）13:30～

会場：エル・パーク仙台セミナーホール

<改めてご案内をさせていただきます>